

神経痛に対する麻杏薏甘湯の効果

野口内科クリニック(石川県) 野口 隆俊

神経痛とされる症状(痛み・しびれ)を訴え、NSAIDsによる治療が無効であった症例に対するクラシエ麻杏薏甘湯の単独投与による治療効果を検討したところ、麻杏薏甘湯は神経痛の症状に有用であった。本稿では、麻杏薏甘湯が有用であった症例を供覧し、さらに麻杏薏甘湯の痛み・しびれに対する作用機序について考察した。

Keywords 麻杏薏甘湯、神経痛、エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス

はじめに

高齢化社会において神経痛とされる症状を訴える人が多くなっている。現在、神経痛の治療はNSAIDsを中心に行われているが、十分な効果は得られていない。

今回、神経痛の症状(痛み・しびれ)を訴える患者に麻杏薏甘湯を投与し、有用な結果を得たため報告する。

対象と方法

【対象】 NSAIDsによる治療では無効の神経痛症状を訴える症例で、症状の部位は問わず、また原因も限定しない。

【方法】 神経痛の症状に対してはクラシエ麻杏薏甘湯エキス細粒を単独投与した。NSAIDsなど他の薬剤は併用せず、他科で処方された場合には除外とした。

結果

クラシエ麻杏薏甘湯の服薬後、症例によって効果が確認されるまでの日数には大きな差があり、一定の経過時間は確認できなかった。ゆるやかに痛み・しびれが改善する症例もあったが、速やかに改善する症例もあった。

症例 1

【症例】 66歳、男性

【既往歴】 糖尿病

【現病歴】 X年12月、四肢末端にしびれ。整形外科にて頸椎症と診断されたが、特に治療は受けていない。

【治療経過】 12月より麻杏薏甘湯 6g分2にて服薬開始。しびれはなかなか改善しなかったが、X+1年3月になり軽減。その後もゆっくりとしびれは消失に向かった。

経過観察により時にしびれは増悪している。X+1年7月

には下肢末端に冷感を感じるだけになっている。血液検査ではHbA1c 7.1%~7.6%と安定している。糖尿病性神経障害は考えられない。

症例 2

【症例】 62歳、女性

【既往歴】 なし

【現病歴】 X年3月、ランニング中に転倒。その後腰部のピリピリとした痛みを自覚し、整形外科を受診。側彎症を認めるも腰部のピリピリとした痛みの原因は特定できなかった。

3月より麻杏薏甘湯 6g分2にて服薬開始。

5月に他院整形外科を受診。MRIにて仙骨嚢胞が確認されたが、ピリピリとした腰部の痛みの原因とは考えられなかった。

6月初めにはピリピリとした腰部の痛みは消失、麻杏薏甘湯の服薬を中止。

症例 3

【症例】 29歳、女性

【既往歴】 なし

【現病歴】 X年5月、頰脈にて受診。この時頸部から背部と両側前腕にしびれを自覚。5月より麻杏薏甘湯 6g分2にて服薬開始。

約10日後、頸部をはじめ前腕のしびれは消失した。

症例 4

【症例】 60歳、女性

【既往歴】 慢性気管支炎

【現病歴】 X年6月、右前腕のしびれと痛みを自覚。

6月より麻杏薏甘湯 6g分2にて服薬開始。

翌日にはしびれ・痛みともに消失。

症例 5

【症 例】 65歳、女性

【既往歴】 脂質代謝異常症、気管支喘息

【現病歴】 X年11月、右肩のしびれ・痛みを自覚。麻杏薏甘湯 6g分2にて服薬開始。

14日後、朝は痛み・しびれは改善したが、午後からは増悪している。

1ヵ月後には時に痛み・しびれを自覚するも改善。

X+1年3月には、寒い朝には痛み・しびれを自覚するが改善、4月には消失した。

途中、整形外科を受診するが、MRI検査等で異常は認めない。頸椎症と診断された。

考 察

神経痛の原因は、頸椎症のほか、原因不明の症例もあった。

麻杏薏甘湯の服薬後、速やかにしびれ・痛みともに改善する症例もあるが、緩徐な経過でしびれ・痛みが改善、消失する症例もあり、一定の傾向は認めなかった。過去にはNSAIDsの併用を試みたが、症状の改善傾向には大きな差はなかった。

クラシエ麻杏薏甘湯が神経痛の症状に対して有用であることが確認された。この鎮痛・しびれ改善の理由についていろいろと検索したが過去に報告例がなかったが、北里大学の小林が報告した「麻黄およびエフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス (EFE: ephedrine alkaloids-free EHE) の鎮痛作用と副作用の報告」をYAKUZAI ZASSHIに認めることができた¹⁾。小林によると麻黄は「中国薬典2010版」では「辛微苦、温、汗を発し寒を散ず、肺を宣し咳を平らく、水を利し腫を消す」とし、「本草綱目」、吉益東洞「薬徴」、浅田宗伯「古法薬儀」においても同様な説明がなされており、共通部分は「咳、喘息をとめる、また末梢血液循環を改善して末梢を温め、鎮痛し、末梢血管の拡張によって放熱を促進し、解熱する。さらに体液の偏在すなわち浮腫を除く」効能、「微苦、辛(麻痺性)」味を有する、としている。

これはカプサイシンなどの辛味物質やpH6以下の酸、

43℃以上の熱に反応する侵害受容体であると報告している。この侵害受容体はTRPV1 (transient receptor potential vanilloid 1)であり、このTRPV1を刺激すると知覚神経終末からsubstance Pやcalcitonin gene-related peptideなどの神経ペプチドが遊離され、末梢血管が拡張し、末梢からの放熱や体液産生が促進されるとしている。これらは解表薬として理解されてきた。TRPV1に関連した鎮痛については、その他にも薄荷の主成分メントールの類似体である4-イソプロピルシクロヘキサノールという物質が痛みのセンサーであるアノクタミン1とTRPV1の相互作用によってもたらされる痛みに対して鎮痛効果を有しているという発表もあった²⁾。さらにTRPV1とほとんど共発現しているTRPA1チャンネルを大建中湯が活性化させて腸管の血流を改善したという報告もある³⁾。

小林らによるシンポジウムではEFEは麻黄の主効能である解表作用が期待できるとしていた。EFEはマウスでの実験では経口投与にて鎮痛作用を示し、麻黄で認められてきた副作用である不眠・不整脈などの副作用を除去できるとしている。

クラシエ麻杏薏甘湯による痛み・しびれの改善効果はEFEによるものと推測した。今後この成分は新しい鎮痛剤として利用可能であると思われる。

まとめ

麻杏薏甘湯は原因を問わず、一般に神経痛の症状とされる痛み・しびれに対して有用であった。効果発現時間は一定ではなく、急速な改善もあれば緩徐な改善もあり、効果判定は時間を要した。この改善効果はエフェドリンアルカロイド除去麻黄エキスによるものと推測され、今後同成分による薬剤による治療が期待された。

【参考文献】

- 1) 小林義典: 麻黄及びエフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス (EFE) の鎮痛作用と副作用. YAKUGAKU ZASSHI 137: 87-194, 2017.
- 2) Takayama Y, et al.: 4-isopropylcyclohexanol has potential analgesic effects through the inhibition of anoctamin 1, TRPV1 and TRPA1 channel activities. Sci Rep. 7, 2017, 443132.
- 3) Kono T, et al.: Epithelial transient receptor potential ankyrin 1 (TRPA1) -dependent adrenomedullin upregulates blood flow in rat small intestine. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 2013, 304 (4), G428-436